



今年も、「群馬県一大きな笠懸小学校は思いやりも群馬県一」を目指します！

やさしく
たたくまじく

♥ 笠懸小学校

学校だより No.11 2021.9.7

<https://midori-school.ed.jp/kasasho/>

笠小の感染症対策 ～ウイルスを持ち込まないために～



5年生以下は非接触型で、6年生はサーマルカメラで検温を行っています。

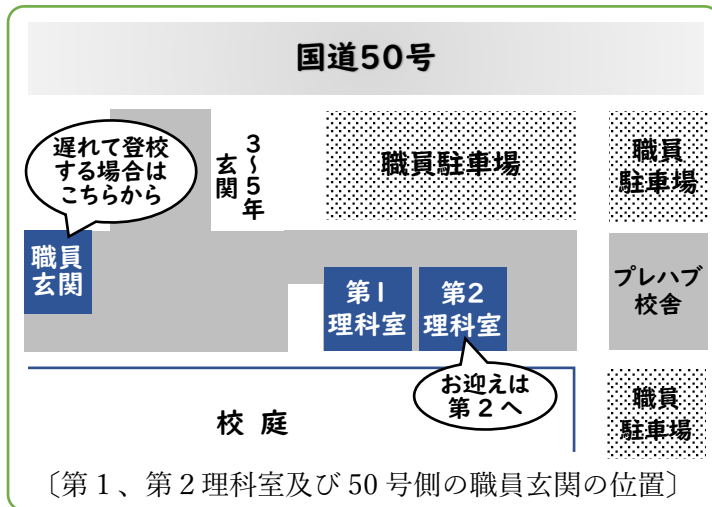
(1) 玄関前の検温 笠小では、非接触型体温計とサーマルカメラを活用して検温を行い、異状を検知した場合は、第1理科室で再度検温しています。遠距離を徒歩で登校した場合は、体温が上昇することもありますので、少し休んだ後に測り直しをするようにし、平熱であることが確認できるまでは待機させて他の児童とは接触させないようにしています。それでも体温が下がらない場合は、第2理科室へ移動させ、ご家庭へお迎えの連絡をさせていただいています。

先週、「午前授業・給食後放課」の10日までの延長をお知らせしましたが、今、笠小の朝はとても緊迫した状況です。それは、危機が身近に迫っているのを感じ、「もし笠小にデルタ株がまん延してしまったら…」と考えているからです。そのため、職員が一丸となって検温と検温カードのチェック、一人一人の健康観察に全力で取り組んでいます。保護者の皆様には、①朝晩の検温、②健康観察、③検温カードへの記入にご協力いただき、感謝いたします。

笠小では、「まず水際対策が重要！」と考え、ウイルスを持ち込まないための3つの対策を徹底しています。

(2) 検温カードのチェック (1)の検温を通過すると、学年の職員がお子さんのランドセルに付いている1週間分の検温カードをチェックし、1カ所でも記入漏れなどがある場合には、第2理科室に移動し、保護者様に直接電話で確認をさせていただいています。子どもたちは確認が取れるまで教室には行きません。

(3) 未確認者の分離 職員は8:30になると玄関前の検温やカードのチェックを終わりにし、学活や授業の準備の取りかかります。しかし、遅れて登校する子どもも少なくありません。チェックを受けない子が校内に入るのを防ぐため、直接教室から出入り



する1年生と特別支援学級以外の各児童玄関を一旦施錠し、入口を国道50号側の正面職員玄関に一本化します。遅れて登校する場合は、職員玄関で検温と検温カードのチェックを受けてください。また、第1と第2の理科室では、廊下側を締め切り、校内にいる子どもたちと交わらないようにしています。

今後の感染状況によっては、追加の措置や学級・学年閉鎖、臨時休校などの可能性も十分あります。不測の事態に備えて、学校では、ICTを活用した休校時の欠席連絡システムやオンライン授業の準備を粛々と進めていきます。

学校にウイルスを持ち込まないようにするためには、ご家庭の協力が必要不可欠です。保護者様の理解を得ながら、感染症対策を進めていきますので、引き続き①「朝晩の検温」②「健康観察」③「検温カードへの記入」の3点セットをお願いいたします。

笠小のオンライン授業 ～今、どこまで進んでる？～

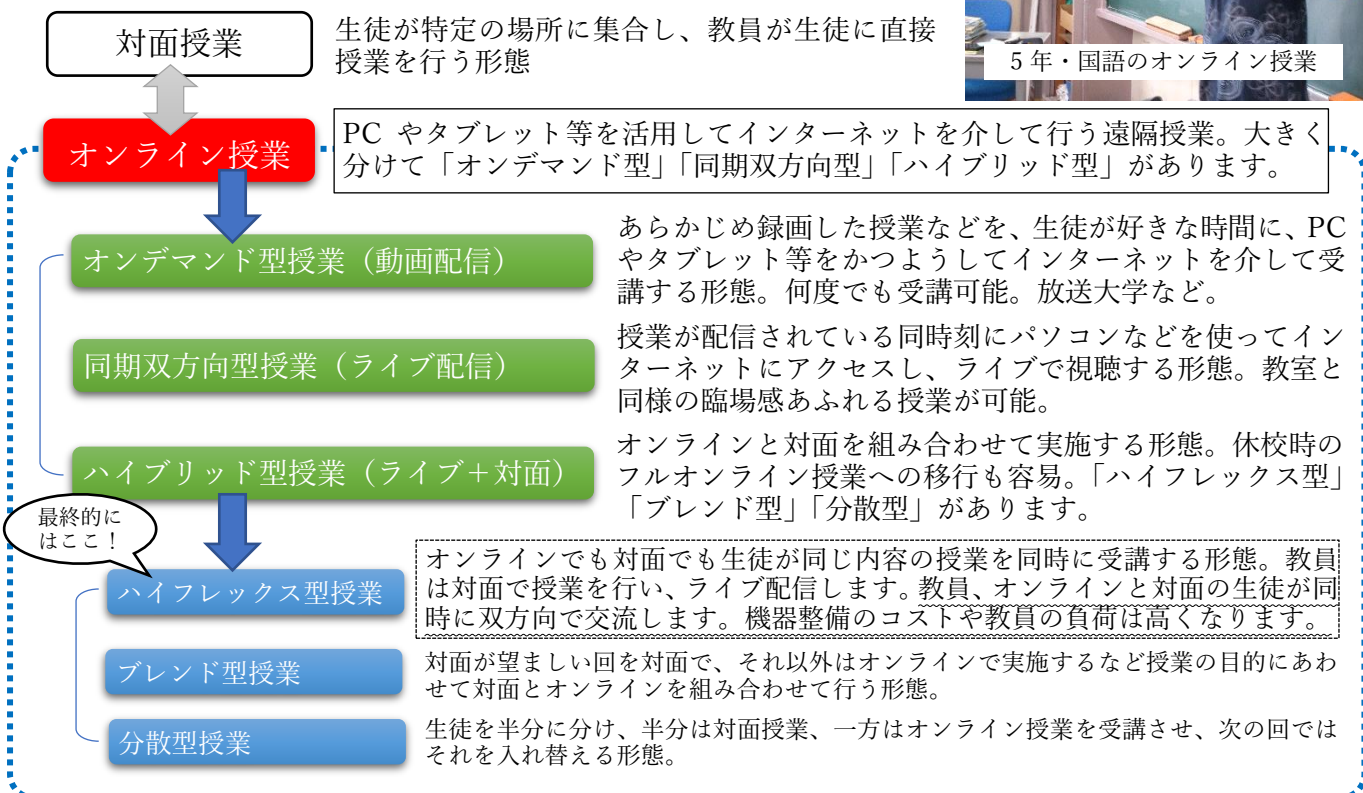
緊急事態宣言により、新学期を迎えた小中学校では全国的に分散登校や短縮授業を行い、テレビでは、連日「オンライン授業」の話題を取り上げ、学校の教員たちが苦心している様子が報道されていますので、保護者様の中には「笠小はどうなのかな？」とお思いの方も多いことと思います。

そこで、現在の笠小のオンライン授業の進捗状況について、お知らせします。

＊裏面も「オンライン授業」の記事が続きます！

①オンライン授業とは？

ニュース等で「オンライン授業」「ハイブリッド型授業」など、さまざまな用語が使用されていますので、整理しておきます。まず、「オンライン授業」とは、直接顔を合わせて指導する「対面授業」の対極にある形態で、さまざまな種類があります。



②笠懸小の取組状況

笠小では、「学びの保障」ため学年の発達段階に応じてオンライン授業を試行しています。1、2年生は、まず Google Meet の練習を始めています。夏休みにタブレットを持ち帰っていたおかげで、アカウントへのログインがスムーズで、「オンライン学活」をしながら練習をしています。3年生以上は、1学期にオンライン授業を試行したり、夏休みに「オンライン登校日」を行ったりしていますので、大半の子どもたちがすでに疑似オンライン授業を体験済みです。現在は、多くの教科やクラスで試行を行い、教育的効果、機器の整備の視点からよりよい授業システムの構築に向けて研究を進めています。各学年の進捗は、以下のとおりです。

3年	「同期双方向型」を試しています。4組では授業をライブ配信して、オンラインの参加者に音声がかかるか、黒板の文字が見えるかなどを確認しながら進めていました。2組ではライブ配信をするだけでなく、教室で各自が自分のタブレットで Meet の画面を見ながら授業をする試みもしています。
4年	「オンデマンド型」を試しています。算数専科の授業を収録して配信しました。資料を提示したり黒板で学習内容を確認したりしながら進めており、とても分かりやすい授業になっていました。現在は、ライブ配信への移行を考えており、よりよい授業システムを研究しています。
5年	国語、算数、社会で「同期双方向型」を行っています。提示資料や YouTube の動画を共有したり、JamBoard で意見交流をしたりするなどオンラインの参加者が授業に参加する場面があり、「ハイブリッド型」に近い授業でした。子どもたちは少し照れながらもうれしそうに参加していました。
6年	「オンデマンド型」と「同期双方向型」を試しています。まず、算数の授業を録画して、動画を配信しました。続いて、算数と社会で「同期双方向型」を試しました。ライブ配信では、教室の子もオンラインで参加の子も楽しそうにしているように感じました。

③今後の見通し

今のところ、最も進化した授業形態は「ハイブリッド型授業」の「ハイフレックス型」です。10年以上前からタブレットを導入している都内国立大学附属小中や研究指定校では長年の蓄積があり、ニュースでも度々取り上げられています。笠小も最終的にはそこを目指しますが、一歩ずつスモールステップで進めていきます。

また、今後はオンラインで参加する子どもたちが見通しをもって学習できるよう、計画的に行っていきます。まだまだうまく行かないこともあります。少し大目に見ただけだと助かります。今後、欠席する子どもたちが増えることを想定し、子どもたちの「学びの保障」にチャレンジしていきます！